



平成27年

人口と世帯(1/5現在)

総人口 13,670人(-17)

男 6,426人(-1)

女 7,244人(-16)

世帯 6,180戸(-2)

()内は前月比

No. 500

500号記念

に歩んだ広報誌



号”を迎えました。

時代とともに歩んだ町の情報誌 広報「さかわ」が、
創刊以来500号を迎えました。

昭和48年7月、現広報の前身だった「佐川町民報」
からバトンを受け継ぎ実に41年8カ月の歴史を刻んで
きたことになります。

広報は町民の皆さまと行政とをつなぐ大切なパイプ
役です。これからも皆さんにとって1番身近な情報誌
として、広報「さかわ」が愛され、親しまれる紙面と
なるよう頑張っていきますので、今後ともよろしくお
願い申し上げます。



平成2年2月発行
第200号



平成10年6月発行
第300号



平成18年10月発行
第400号

皆さんとともに

広報さかわ “500号”

創刊500号にあたって

ついに「広報さかわ」も500号を迎えることとなりました。私が小学生になる前から発行され、もうすぐ42年が経つことになります。それぞれの時代に、多くの町民の皆さまにご協力をいただき、またご登場いただきましたことを、あらためて心より御礼申し上げます。

この長い歴史を広報で振り返りますと、それぞれの時代背景が良く分かり、構成の方法もそれぞれの時代で工夫され、懐かしさを感じさせてくれます。最近ではできるだけ分かり易く伝えるため、カラーでの写真を増やすなど工夫を凝らしております。ただ、それでも十分ではないところもあり、「文字をもう少し大きくしてもらいたい。」などご意見をいただいておりますので、今後も引き続き改善を重ね、町民の皆さまにより読みやすく、親しみやすい広報にしていきたいと考えております。

今後も、多くの皆さまのご協力をいただき、また情報提供をいただき、佐川町の情報をタイムリーに分かり易く伝えていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

佐川町長 堀見和道



昭和48年7月発行
創刊号



昭和56年10月発行
第100号

創刊から41年8カ月

町の足跡を記しながら



町民報から広報「さかわ」へ

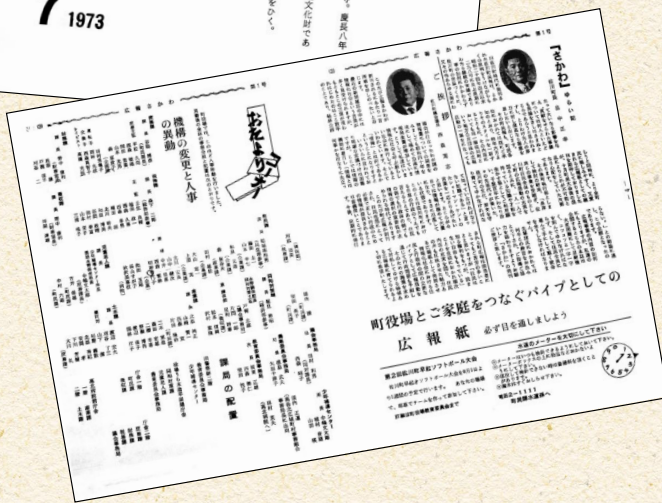
昭和24年4月から住民組織で編集発行がされてきた「佐川町民報」の存続が困難となり、広報事業を行政側が受け継いだことにより、昭和48年7月、現広報「さかわ」の創刊号が発行されました。

6ページにまとめられた創刊号に

は、役場の機構変更と人事異動や町指定文化財目録が載せられ、第1回少年野球大会で佐川ホワイトジャガ―が準優勝を飾ったとあります。



7 1973



第65号 昭和53年11月発行



「特急列車」佐川駅に停車
佐川駅に特急列車が停車。今ではあたり前のことのように思われますが、実は今から12年前の昭和53年10月、国鉄のダイヤ改正により実現したものです。

最初の特急「南風2号」が停車する10月2日、佐川駅で盛大な記念式典があったことが掲載され、また、この陰には、高吾北の人々のたゆまぬ陳情と努力があったことを伝えています。

第27号 昭和50年9月発行



台風5号佐川を襲う
24時間総雨量625ミリ、時間最大降雨量108ミリ。昭和50年8月16日に佐川を直撃した台風5号は、全戸の4分の1が浸水するという、町史始まって以来の未曾有の大災害をもたらした。その被害額は100億円を超えました。

広報は、この災害の状況と復旧の様子を克明に記録しています。表紙の題字「さかわ」はこの年1月号より、当時の町長の直筆が使われています。

毎月一度、皆さまのお茶の間にお届けしています広報「さかわ」が、本号で5000号を迎えました。5000号を機に、これまでの誌面を振り返ります。

第168号 昭和62年6月発行



高5.5メートル、体長9.2メートルの大きなものです。

佐川町にナウマン象が現れる
表紙いっぱい迫力満点のナウマン象が出現。昭和57年、藩政時代から佐川八景のひとつとして数えられていた猿丸峠近くに広がるカルスト地帯が町の観光資源として注目をあび開発に着手。そしてこの公園の目玉としてナウマン象が登場。建立されたナウマン象は、体

第90号 昭和55年12月発行



また、役場前で日曜日オープン。にぎわう様子が掲載されています。

町制80周年を迎える
佐川町の歴史は、明治33年1月の町制施行に始まりその後、合併や分町が行われ昭和34年に現在の規模の佐川町となっています。11月1日、文化センターで行われた町制80周年式典では様々な行事が行われ、町政功労者が表彰されています。

第182号 昭和63年8月発行



高知県の広報誌が、全国コンクールの町村の部で入選したのは23年ぶりとのことです。

全国広報コンクールで入選
4年半にわたる交流が実を結び、佐川町と北海道常呂町との姉妹町調印が実現しました。特集では、常呂町についての情報や調印に至った交流のあゆみを掲載。また、広報さかわ182号は、全国広報コンクール(町村の部)で入選7席に選ばれました。

第100号 昭和56年10月発行



佐川の財産として、これからも佐川踊りを受け継ぎ残していきたいですね。

おめでとう広報100号!
発刊後8年4カ月の歳月をかけ広報「さかわ」が100号に到達。記念特集では、表紙に使用された11枚の写真がつづられ時の流れをうつつし出しています。特集では、年一回の佐川踊りが開催されたことを掲載。踊り子600人、観衆約2,000人を集め、盛大に夏の宵のフィナーレを飾ったとあります。

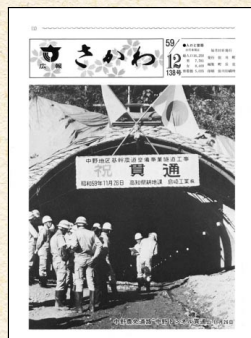
第200号 平成2年2月発行



か取り上げ、町の移り変わりをはじめ、その時々町の表情を紹介しています。

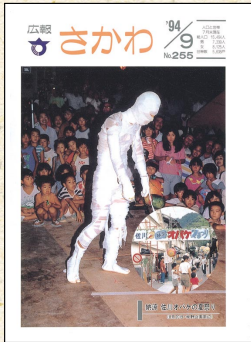
200号を迎えました!
表紙は、昭和60年春の選抜高校野球で、伊野商業高校に甲子園初出場、初優勝の快挙をもたらした立役者の渡辺智男投手帰郷の写真です。創刊から16年8カ月が経ち、200号を迎えた広報さかわ。記念特集では、過去の広報の中からいくつか取り上げ、町の移り変わりをはじめ、その時々町の表情を紹介しています。

第138号 昭和59年12月発行



町民一人一人が主人公となるまちづくり運動について掲載されています。

第1回ルネサンス運動月間開催
昭和57年に始まった小集落地区改良事業に端を発し、佐川町全体のまちづくり運動として進められることになった「文教の地・佐川ルネサンス運動」の第1回ルネサンス運動月間が11月に開催され、町内5会場19種目にもものぼる多彩な催しが行われています。



佐川オバケの夏祭り
古い町並みが残る牧野公園周辺を会場とし、江戸時代から深尾家に伝わる「土佐お化け草紙」をテーマにした「佐川オバケの夏祭り」が開催されたことを伝えています。
仮装大会が行われるなど、ユーモアと不気味さあふれる夏祭りは大成功を収めたことが記されています。

おかげさまで 500号



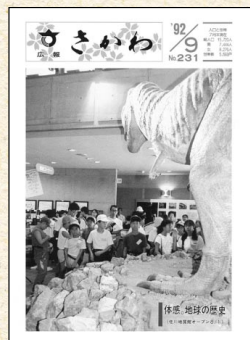
皆さんに支えられ300号！
200号記念特集から、8年4カ月が経ち広報さかわも300号に到達。
特集では、200号以降の広報の歴史を振り返るとともに、待望の桜座開館についても掲載。「桜座」の開館を記念し、こけら落としやオペラ上演など多彩な催しが行われ、佐川町の文化の殿堂「桜座」の門出を祝ったことを伝えています。



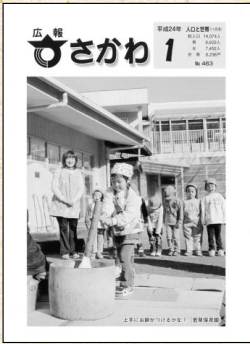
ナウマンカルスト音楽祭
アフリカの世界的なミュージシャン「サリフ・ケイタコンサート」をメインステージとする第5回佐川・ナウマンカルスト野外音楽祭が開催され、約2,000人の大観衆が集まったことを掲載。
「音楽を通じての民族文化の違いを超えた人と人との触れ合い」という観点からは、まちな国際交流の機運の高まりともいえたのではないのでしょうか。



よさこい高知国体夏季大会開催！
第57回国民体育大会「よさこい高知国体」のサッカー競技成年男子が佐川町で開催されたことを掲載しています。北は北海道から南は九州・沖縄まで各地区予選を勝ち抜いた16の都道府県チームが連日、白熱した試合を繰り広げました。4日間で、スポーツパークさかわ球技場には延べ7,000人近くの観客が訪れ、選手たちに大きな声援を送りました。



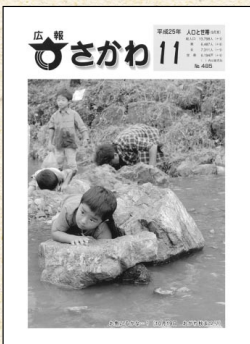
地質のメッカに佐川地質館誕生
日本地質学発祥の地として広く知られる当町に、恐竜の化石や地球の大陸移動説など、地質学の成果を楽しく学べる全国でも珍しい地質学専門の博物館「佐川地質館」がオープンしたことを伝えています。
玄関を入ると、体長5メートル(実物の5分の3)の世界最大の肉食恐竜ティラノザウルスが声を上げ動きながら入館者を迎えてくれます。



また、牧野博士はかつて町の広報誌に記事を寄せてくれることがあったことを伝えています。

牧野富太郎博士 生誕150年
文教のまち佐川を象徴する偉人、牧野富太郎博士は1862年4月24日に今の西町に生まれました。
牧野博士生誕150年を迎えた平成24年には、「日本の植物学の父」と言われる博士を顕彰した事業が日本全国、高知県内で行われました。

これからも
広報さかわを
よろしくお願いします。



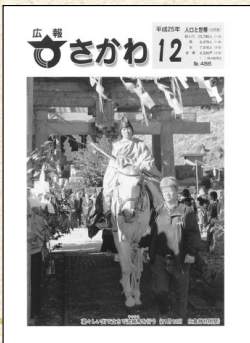
よう。

チーム佐川を目指して
表紙写真は、おがわ秋祭りの「アメゴのつかみどり」の様子です。
堀見町政がスタートした平成25年11月では、町長就任の挨拶を掲載。人がイキイキと輝き、活躍できるまちづくりや町の進む方向性について伝えています。
皆さん、よりよい佐川町を一緒につくっていきましょう。



ない夏になつたのではないのでしょうか。

400号を迎えました！
表紙には、全国中学校体育大会・ソフトボール男子において、全国制覇を果たした尾川・黒岩中学校の写真が掲載されています。
優勝報告バレードでは、多くの町民が祝福の拍手を送りました。選手たちはもちろん、保護者、地域の方にとつて忘れることのできる夏の思い出を残す貴重な建物であることが高く評価されました。建築物としても、町の歴史を知る上で、大変貴重な住宅です。



います。

ねりんピックよさこい高知開催！
心配された台風の影響もなく、素晴らしい秋晴れの下、ねりんピックよさこい高知2013「ウォークラリー交流大会」が町内特設コースを中心に行われたことが伝えられています。
県内外から集まった選手の皆さんは、高知県と佐川町の魅力を楽しんでいたと思います。



な住宅です。

「竹村家住宅」国の重要文化財に
白壁の酒蔵が並び、歴史的なたたずまいを残す町並みの一角、上町の「竹村家住宅」が、国の重要文化財に指定されたことが掲載されています。
土佐地方の特色を顕著に残す貴重な建物であることが高く評価されました。建築物としても、町の歴史を知る上で、大変貴重な住宅です。

商売繁盛！



開運招福！

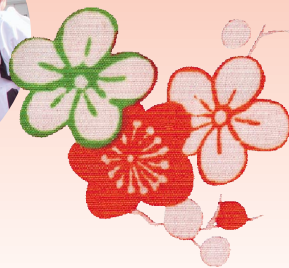


えびす祭り

1月10日、新春恒例の「えびす祭り」が行われ、約300人余りのおなばれの行列が商店街をにぎやかに練り歩きました。
今年も佐川町が元気でありますように！



家内安全！





平成27年度 佐川町成人式

1月11日、桜座において成人式が行われました。今年、佐川町で成人を迎えたのは145人。そのうち108人が色鮮やかな振袖や真新しいスーツに身を包み式典に出席しました。

久しぶりに再会した友人たちと談笑したり、記念撮影をしたり、喜びを分かち合っていました。



▲新成人代表で謝辞を述べる
西村溪子さん

